

点検をする人は、 車好き というよりも 家族好き なんだと思います。



家族の安心・安全のために。
家族のお財布のために。
家族が暮らす地球の環境のために。
日常点検をすることで
ハッピーになることはたくさんあります。
もちろんあなたの愛車のためにも。

車は家族の一員です。
さあ、あなたも日常点検はじめよう。

●自動車の点検・整備のこと詳しくわかります。

点検整備

検索

www.tenken-seibi.com



2008自動車点検整備推進運動

推進：国土交通省 自動車点検整備推進協議会 後援：内閣府 警察庁 環境省 協力：自動車検査独立行政法人 軽自動車検査協会 独立行政法人自動車事故対策機構
(社)日本自動車整備振興会連合会・(社)日本自動車工業会・(社)日本自動車販売協会連合会・(社)日本中古自動車販売協会連合会・(社)全国軽自動車協会連合会・日本自動車輸入組合・(社)日本自動車連盟・(社)全国自家用自動車協会・(社)日本バス協会・(社)全日本トラック協会・(社)全国乗用自動車連合会・(社)全国レンタカー協会・(社)日本自動車タイヤ協会・全国石油商業組合連合会・(財)自動車検査登録情報協会・(財)日本自動車教育振興財団・(社)日本損害保険協会・全国共済農業協同組合連合会・全国労働者共済生活協同組合連合会・(社)日本自動車部品工業会・(社)全国自動車部品商団体連合会・全国自動車部品整備商工組合連合会・自動車用品小売業協会・(社)電池工業会・全国ディーゼルの振興会連合会・日本自動車車体整備協同組合連合会・全国タイヤ商工協同組合連合会・(社)日本自動車車体工業会・全国自動車部品販売店連合会・日本自動車部品協会(限不同)

快適なドライブは簡単な日常点検から。 しっかり定期点検も忘れずに。

日常点検や定期点検をきちんと行っていますか。

日頃こまやかな点検を行ってれば、運転中のトラブルの多くは回避できます。

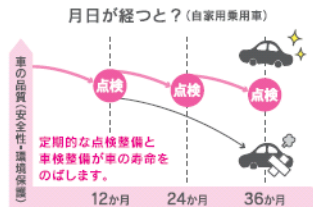
クルマの健康管理は、クルマを守るだけでなく、人の命や環境も守ることにつながります。

日常点検

日常点検は、日頃、自動車を使用している中で、走行距離や運行状態などから判断し、適切な時期に点検整備を行います。

定期点検

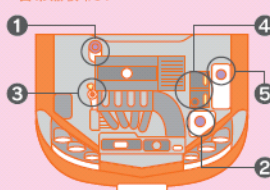
定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、自家用乗用車は12か月および24か月ごとに実施しなければなりません。



マイカーを点検しよう! 日常点検 15 項目チェックシート

判定 ○ or X

日常点検 #01



エンジンルーム 5項目



1 ブレーキ液の量

ブレーキ液のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。液量が下限ラインより低い場合は、安否に補給せず、早急に整備のプロに相談しましょう。



2 冷却水の量

冷却液のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。この冷却水が下限ラインに近いか、それより少ない場合は、上限ラインまで冷却水を補充しましょう。



3 エンジン・オイルの量

エンジンに付いているオイル・レベルゲージを抜きとり、付着しているオイルを拭きとってから、ゲージをいっぱいまで差し込み、再度抜きとってオイルの量を見ます。ゲージの先端についている2本のラインが、キザキザ部分の目印の中間にオイルがあれば合格です。ゲージの下限ラインよりもオイルが下側にあるときは補充しましょう。また、汚れている場合は交換しましょう。



4 バッテリー液の量

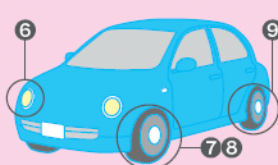
バッテリーの液量が規定の範囲(上限と下限の間)にあるかを車両を揺らすなどで点検します。バッテリー液は腐食性が強いので、体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。



5 ウインド・ウォッシャー液の量

ウインド・ウォッシャー液の量が適当かを点検します。液量が少ない場合は上限まで補給しましょう。

日常点検 #02



外回り 4項目



6 ランプ類の点灯・点滅

クルマにはヘッド・ランプ、車輪灯、ストップ・ランプ、テール・ランプ、ウィンカーなど、多くのランプが付いています。点灯・点滅の有無を確認し、レンズの汚れや損傷も調べましょう。点灯・点滅していない場合は、すみやかに交換しましょう。



7 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの亀裂や損傷の有無を目や手で確認するとともに、タイヤに異物が付着していないかを入念に点検します。タイヤにかみ込んだ異物はきれいに取り除きましょう。また、タイヤが片減りしている場合は要注意。整備のプロに相談しましょう。



8 タイヤの空気圧

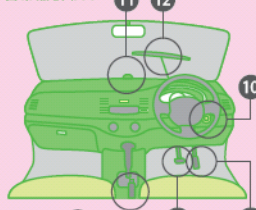
タイヤの接地部のたわみ具合を目で見て判断しましょう。接地部のたわみ具合で判断ができなければタイヤゲージを使って点検しましょう。タイヤの空気圧が不足している場合は、指定空気圧まで補充しましょう。



9 タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さが浅くないかをタイヤの接地面のスリップ・サインを目印に、チェックします。スリップ・サインは溝の深さが1.6mm以下になると、現れます。溝の深さが足りない、スリップしやすくなり、雨天走行時はとても危険です。サインが取れたら、早急にタイヤを交換しましょう。*スリップ・サインは、タイヤ側面の三角マークのある位置の接地面に出ます。

日常点検 #03



運転席 6項目



10 エンジンのかかり具合・異音

エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点検します。



11 ウインド・ウォッシャーの噴射状態

ウインド・ウォッシャー液を噴射させ、ワイパの作動範囲に噴射されるかチェックします。また、その向きや高さが適当か点検します。



12 ワイパの拭き取り能力

ワイパを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。また、ウインド・ウォッシャー液がきれいに拭き取れるかを点検します。ワイパのから拭きは、ガラスを傷つけますので、ウインド・ウォッシャー液を噴射してからワイパを作動させましょう。



13 ブレーキの踏みしるるときき具合

エンジンをかけて異音がないかどうか確かめよう。ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、床板との隙(踏みしろ)が適当かどうか確認します。また、その踏みしろがいつもと違うと気づいたら要注意です。踏みしろの正しい判断は、新車時や定期点検直後のブレーキペダルのフィードバックで判断するといえます。



14 駐車ブレーキの引きしろ(踏みしろ)

駐車ブレーキをいっぱいについた(踏んだ)ときに、引きしろ(踏みしろ)が多すぎたり、少なすぎたりしないかをチェックします。ブレーキペダルと同様に、新車時や定期点検直後の正しい値と比較してください。



15 エンジンの低速・加速状態

エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。次に、エンジンを徐々に加速したとき、アクセルペダルに引っかかりがないか、スムーズに回転が上がるか、走行するなどして点検します。

※自家用乗用車の定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロにまかせたほうが安心です。

トラック・バスなどの大型車をご使用の皆さんへ

車輪脱落・火災防止のために しっかり点検・整備しましょう。

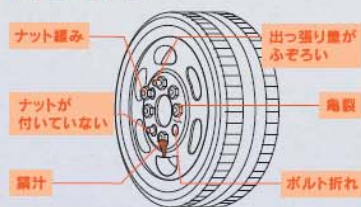
日常点検や定期点検をきちんと行っていますか？
日頃こまやかな点検を行っていれば、車輪脱落・車両火災などのほか
運転中のトラブルの多くは回避できます。
毎日安心して運転するために、しっかり点検しましょう。

◎大型車のホイール・ボルト関係の点検内容

日常点検

1日1回、運行前に日常点検を実施することになっています。乗用車と比べて走行距離も多いことから、クルマの健康状態をしっかりチェックし、事故を未然に防止するためにも日常点検を行いましょう。

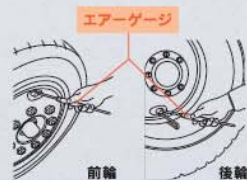
①目視での点検



②点検ハンマや小型ハンマを使用する点検



③タイヤ空気圧の点検



定期点検

定期点検には3か月点検と12か月点検があります。
事故を未然に防ぐためにもきちんと点検しましょう。

[3か月定期点検時] 日常点検に加え、トルクレンチなどを使用して、ホイール・ナットが緩んでいないか（規定の締付けトルクで締付けられているか）点検します。

[12か月定期点検時] ディスクホイールの点検は、ホイールを外して行います。ホイール・ボルトやホイール・ナット及びハブなどの関連部品に異常がないかも点検します。

このような事故が起きています。

大型自動車の車輪脱落事故

ボルトの折損を伴うタイヤの脱落事故は、平成11年1月以降、平成19年12月末までに262件発生しており、平成20年4月には、東名高速自動車道でボルト折損により脱落したタイヤが対向してきたバスに衝突し、バスの運転者が死亡した事故が発生しています。車輪脱落事故は、ナットが緩む、ボルトが折れる等、車輪脱落までには必ず予兆があります。日常点検や定期点検をしっかり行ってください。また、タイヤ交換時などの不適切な締付け（強すぎ、弱すぎ）や、誤ったボルト・ナットの使用（アルミホイール用、スチールホイール用の誤用）は、車輪脱落の原因となります。



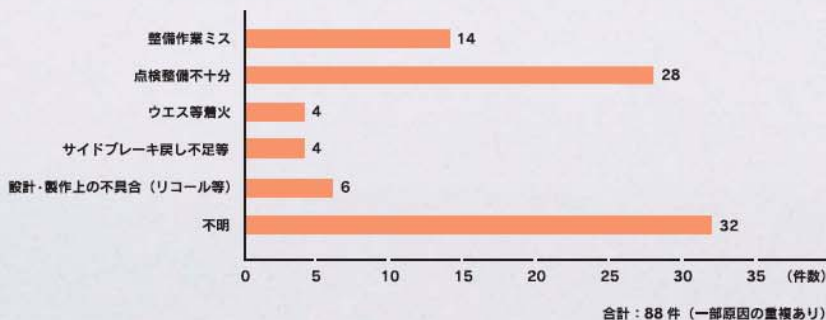
◎大型バスの火災防止のための点検内容

定期点検

燃料装置の燃料漏れや、
電気装置の電気配線の接続部に緩み及び損傷がないかを点検しましょう。

バス車両火災の原因は、整備作業ミスその他、エンジンルーム内に置いたウエス等への着火やサイドブレーキ戻し不足といったミスがある他、適切な点検整備をしていれば免れたと考えられる火災事故が数多くあります。

事業用バス火災事故件数 原因(推定も含む)



- 「整備作業ミス」は、部品の取付が不十分（緩いものもあれば、締め付けすぎもある）であったもの、取り付ける部品を間違えたもの、取り付ける方法を間違えたものなどが主な原因です。
- 「点検整備不十分」は、燃料配管を固定するクランプの不具合による燃料漏れ、配線の不具合の見落とし、テール・パイプ等の腐食などが多くの原因です。

このような事故が起きています。

事業用バスの車両火災事故

平成18年6月と8月に、山陽道においてバスの車両火災事故が発生。そのいずれも、燃料配管を押えるクランプのゴムが多硬化し、直接金属同士が接触、配管に穴があき燃料漏れを起こしたことに起因すると推定されています。定期点検をしっかり行っていれば防げた内容です。バスの車両火災は、平成15年1月から、平成19年末までに事業用で105件発生しており、なかには、車両が全焼に至るケースも見られ、一歩間違えれば大惨事となりかねません。



推進：国土交通省 自動車点検整備推進協議会 後援：内閣府 警察庁 環境省
協力：自動車検査独立行政法人 軽自動車検査協会 独立行政法人自動車事故対策機構

大型車車輪脱落防止連絡会・(社)全日本トラック協会・(社)日本バス協会・(社)全国自家用自動車協会・(社)日本自動車タイヤ協会・(社)日本自動車整備振興会連合会・全国タイヤ商工協同組合連合会・全国石油商業組合連合会・(社)日本自動車車体工業会・自動車用品小売業協会・日本自動車輸入組合・(社)日本自動車機械工具協会・(社)日本自動車機械器具工業会・(社)日本自動車販売協会連合会・(社)日本自動車工業会(限不同)



2008自動車点検整備推進連盟

自動車の点検・整備のこと詳しくわかります。

点検整備

検索

www.tenken-seibl.com